

第6学年体育科学学習指導案

日 時 令和3年10月8日(金) 5校時

場 所 御所小学校 体育館

児 童 男子5名、女子13名 計18名

(特別支援学級 男子1名 計19名)

指導者 教諭 新沼 拓

1 単元名 「一緒に『変化』を楽しもう！」(F 表現運動 ア表現)

2 授業の基本的な構想

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領の「第5学年及び第6学年の内容」(F 表現運動)の内容を受け、設定したものである。

高学年の表現運動は、「表現」及び「フォークダンス」で内容を構成している。これらの運動は、自己の心身を解き放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動であり、お互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、中・高学年の「表現」は身近な生活などから題材を選んで表したイメージや思いを表現することが楽しい運動であり、自由に動きを工夫して楽しむ創造的な学習が進められるところに特徴がある。

本単元では、児童一人一人が表現することの楽しさや喜びに十分触れることができるように、児童の今持っている力やその違いを生かせる題材を選ぶとともに、個人やグループの持ち味を生かした題材の選択や簡単なひとまとまりの表現への発展など、それぞれの児童がもつよさを積極的に認め、そのよさを広げられるように学習を展開していく。

(2) 児童について

1学期に行った「マット運動」では、頭倒立に挑戦した。本学級の児童は、特に器械運動において基礎感覚が十分でない児童が多く、技のできた、できないだけに焦点を当ててしまうと、できないまま単元を終えてしまうことがある。そのため、技のできた、できないだけでなく、「伸びる楽しさ」「わかる楽しさ」「集う楽しさ」に着目させることで、苦手な運動であっても、振り返りに「感覚をつかめた」や「友達にアドバイスしてもらって、レベル1から2に上がった」などの楽しさを味わうことができた。ゴールが明確になったり、楽しみ方がわかったりすれば、意欲的に学ぶことができる児童が多いと言える。

本学級の児童は、昨年度、表現運動の学習経験があり、主に立体的な動き(資料①点線枠参照)を学習してきた。正解がないという表現運動の特性を十分に理解することで、安心感をもって、グループで協力して取り組むことができていた。しかし、自分たちの思ったことをグループで協力して表現できた半面、自分たちの表現したことが相手(兄弟グループ等)にきちんと伝わるかを不安に感じる児童もいた。

また、普段の授業の様子や、学習発表会の様子を見ると、自信のなさから、声や動きが小さくなったり、友達に聞くことや挙手をためらったりする児童も数名いる。

研究に関わる学び合いについては、明確に、互いの考えを伝えたり教え合ったりする習慣形成はできている児童が多い。しかし、体育科における学び合いについては、アンケートに記載があるように、「どのように言ったらよいかわからない。」と、学び合いに対して自信をもてない児童もいる。

アンケートの結果は、次のページの通りである。

<表現運動に関するアンケート>結果 (18人)

①表現運動は好きか、嫌いか。

「好き・どちらかと言えば好き」・・・16人

「どちらかと言えば嫌い・嫌い」・・・2人

②①と答えた主な理由(記述)・・・○は好きな理由、●は嫌いな理由

- 5年生の時にやった表現運動が楽しかったから。
- グループで工夫して動きを考えることが楽しかったから。
- みんなで協力して一つのものを作るのが楽しいから。
- 仲良くなれるから。
- 考えるのが大変だから。
- 表現したことが伝わらない時があるから。

③体育の学習で、考えたことや思ったことを伝え合うことをしているか。

「している・どちらかといえばしている」・・・14人

「どちらかといえばしていない・していない」・・・4人

④③と答えた主な理由(記述)・・・○は伝え合う理由、●は伝え合わない理由

- 考えたことを伝えると友達がうまくなるから。
- 友達のを聞いて聞くと納得できるから。
- 意見を出せないから。(どのように言ってもいいかわからないから。)

⑤体育の授業で友達にしてもらって嬉しいこと(記述)

- ・「良かったよ」「上手だね」「すごいね」等と褒められることや、応援してもらえること。
- ・できなかったことができたときに、一緒に喜んでくれること。
- ・自分の意見を認めてもらえること。
- ・できるようにアドバイスしてもらえること。

⑥表現運動で楽しみなこと、心配なこと(記述)・・・○楽しみ、●心配

- 自分の考えた表現をすることが楽しみ。
- 工夫をみんなで考えたり、出し合った意見を一つにまとめたりして表現すること。
- みんなで協力してやること。
- けがをすること。
- 思ったことを表現できるか自信がないこと。

(3) 指導について

(1)(2)を受けて、本単元では、以下の点に留意しながら授業を展開していく。

①十分な体と心をほぐす時間の設定(活動①)

本単元には、心と体の解放が不可欠である。昨年度の様子から、児童は定型の動きや教師から指示された動きについては、音楽に合わせてたりしながら体を動かすことが好きである。そのため、活動①で準備体操も兼ねて音楽に合わせて動きを2～6時間目の授業冒頭に取り入れる。この活動で心と体を解放し、どの児童も不安なく表現運動に入れるようにしていきたい。

②グルーピングの工夫

(2) 児童の実態で表現することに自信をもてない児童がいることが想定されることを考慮し、児童の実態を考慮したグルーピングを行う。そのため、1～2時間目で、児童の「表現運動」に関する実態把握をより正確に行う。そして、全身を使って大きく表現できている児童、積極的にアイディアを発信できる児童が各グループに入るように、グループを組む。そのことで、グループで表現を創造するとき、真似することから始められたり、アドバイスをもらったりして、グループで教え合い、安心して取り組めるようにしたい。

③既習内容のキーワード化

本単元では、児童が身体表現したことや、教師が学習課題として提示することをキーワードとして板書に残しながら学習を進めていく。そのことで、児童が様々な身体表現を言葉で伝えあえるようにしたい。また、キーワードとして残すことで、伝え合ったり教え合ったりするための視点が明確になり、児童が学びを共有できるようにしたい。また、1時間目に学習のゴールとなる作品の見本を見せ、単元の最後には、「はじめなかーおわり」で構成されるひとまとまりの作品を工夫して創り上げることを伝える。そのために第2時から第4時までの「立体的な動き」「時間の変化」「力の変化」で自分たちが表現した動きを積み重ねていくことが大切であることを伝え、意識化させていきたい。

(4) 授業づくりの考え方 <校内研究との関連>

【場の設定の工夫】

①物理的・空間的な場

- ・音楽 安心して楽しく表現したり、イメージを膨らませたりするための音楽を流す。
- ・ICT 安心して身体を動かせるように、必要に応じてICTを活用する。

②学び合いの場

- ・掲示 動きのヒントになるキーワード、出し合ったアイディアの掲示をする。
- ・時間の確保 学び合いの時間を確保し、自分の良さや友達の良さに気付き、より表現をしようという気持ちを高めたり、安心して表現したりできるようにする。

【振り返りの観点】

①いっぱい運動できたか。

【動く楽しさ】

②表現の行い方がわかったか。(キーワード等から動きのイメージがもてたか)

【わかる楽しさ】

③表現を工夫することができたか。

【伸びる楽しさ】

④場所や用具の安全に気を配ったり、アドバイスしあったりすることができたか。

【集う楽しさ・学び合い】

3 単元の目標

- (1) 表現の行い方を理解するとともに、個人やグループの特徴を生かして、表したい感じを表現することができるようにする。 【知識及び技能】
- (2) 自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や発表の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 表現に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い助け合って表現したり、場の安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①表現の行い方について、言ったり書いたりしている。	①表したい感じやイメージが表れているか、踊りの特徴を捉えて踊れているかなど、グループの仲間や他のグループの踊りを見て、自己やグループの課題を見つけている。	①表したい感じやイメージを表現したりする運動に積極的に取り組もうとしている。
②はげしい感じや急変する感じをメリハリ（空間の変化・緩急・強弱）のあるひと流れの動きにして即興的に踊ることができる。	②課題に応じて、差のある動きや群の動きなどで変化をつける方法を選んでいる。	②互いの動きや考えのよさを認め合おうとしている。
③表したい感じやイメージを強調するように、変化と起伏のある「はじめなかーおわり」の構成を工夫して、仲間と感じを込めて通して踊ることができる。	③表したい感じやイメージにふさわしい動きになっているかをペアのグループやクラス全体で見合い、よい点、改善点を伝えている。	③グループで取り組む際に、仲間と助け合おうとしている。

5 指導と評価の計画【第6学年】(6時間扱い)

時	第1時	第2時	第3時	第4時 (本時)	第5時	第6時	
テーマ	心の解放	立体的な動き (人・身体・空間)	メリハリ 時間の変化	メリハリ 力の変化	ひとまとまり	発表	
一時間の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・服装確認 ・整列 ・挨拶 【オリエンテーション】 ・学習計画や学習の約束・きまりを確認し、単元の見通しをもつ。 ・学習の仕方を知る。 ・進化じゃんけん ・やってみよう ・8844221111 	<p>活動①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装確認 ・整列 ・挨拶 (・用具や場の準備) ・ウォームアップ → やってみよう！準備体操を踊る。 → 「8844221111」のリズムに合わせて踊る。 <p>○本時の学習課題と動きのキーワードを確認する。</p> <p>○教師の言葉かけに合わせて、即興的に表現したり、イメージをふくらませたりする。</p> <p>【題材】 水</p> <p>【題材】 スポーツ</p> <p>【題材】 花火</p> <p>【題材】 既習から選択</p> <p>【題材】 既習から選択</p> <p>活動②-1</p> <p>○グループでひと流れの動きを創り、表現する。</p> <p>○互いの動きを見合い、よさを伝えあう。 ・見合う前に、見る視点(キーワード)を確認する。</p> <p>活動②-2</p> <p>○グループでひと流れの動きを創り、表現する。</p> <p>○互いの動きを見合い、よさを伝えあう。 ・見合う前に、見る視点(キーワード)を確認する。</p> <p>・学習のふりかえり、発表 ・整理運動 ・挨拶 ・片付け</p>					
評価の観点	知・技	① 【観察・発言・カード】		② 【観察・発言・カード】		③ 【観察・発言・カード】	
	思・判・表		① 【観察・発言・カード】		② 【観察・発言・カード】	③ 【観察・発言・カード】	
	態度	① 【観察・発言・カード】	② 【観察・発言・カード】			③ 【観察・発言・カード】	

6. 本時の目標と展開

(1) 目標

差のある動きや群の動きなどで変化をつける方法を選ぶことができるようにする。【思考・判断・表現】

(2) 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点（・）及び評価の観点（◇） 研究との関わり（◎）期待する子どもの姿（☆）
導入 9分	<p>1 整列・服装確認・挨拶</p> <p>2 ウォーミングアップ（活動①）</p> <p>（1）やってみよう準備体操をみんなで踊る。</p> <p>（2）8 8 4 4 2 2 1 1 1 1のリズムに合わせてグループごとに踊る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・服装を整え学習に取り組む気持ちと安全への意識を高めさせる。 ・楽しい雰囲気を作りながら、心身ともにほぐすようにさせる。 ・教師も一緒に踊り、児童のよい動きを積極的に認め、動きへの意識を高める。 ・動きの大きな児童を称賛し、他の児童にも「大きな動き」への意識を高めさせる。
展開 30分	<p>3 学習課題を把握する</p> <p>（1）学習課題をつかむ。 課題の把握→既習の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>力の変化をいかし、花火を表現して楽しもう！</p> </div> <p>【題材】花火</p> <p>（2）教師の声かけで動きながら、動きのイメージをつかむ。</p> <p>4 学習課題の解決</p> <p>（1）グループごとにひとながれの動きを考えて表現する。（活動②-1）</p> <p>（2）グループ順に互いの動きを見合いキーワードに基づいて互いに良い点を伝え合う。</p> <div style="border: 2px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>グループ数は3つ （6人、6人、7人） 例）A グループ発表 →B,C グループがまねをしながら体感、Aの良さ、改善点を発表。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の確認は、本時に関わる部分を重点的に扱う。 【キーワード：力の変化、強弱、緩急、アクセント】 ・個人で動きながら、キーワードのイメージをつかみ、グループでの表現につなげていく。 ・実際に身体を動かしながら、相談させる。（座らない。） ・表現に迷っている児童や、表現が小さくなる児童に対しては、板書のキーワードで個人の動きを思い出させたり、友達の動きを真似させたりする。 ・発表前にテーマ、見所や使用するキーワードを発表させる。 ・他のグループの動きを一緒にやりながら、そのグループの動きを体感する。 ◎相手グループに、キーワードに基づいて他のグループの良い点を伝え合っている。

	<p>(3) アドバイスや、他のグループを参考にし、ひとながれの動きを考えて表現する。(活動②-2)</p> <p>(4) グループ順に互いの動きを見合いキーワードに基づいて互いに良い点を伝え合う。</p>	<p>・他のグループに認めてもらった点をさらに改善させたり、他のグループを見て真似してみたい点を取り入れたりさせる。</p> <p>◇差のある動きや群の動きなどで変化をつける方法を選ぶことができるようにする。</p> <p>【思・判・表】(観察・発言・カード)</p> <p>☆破裂する時と火花が落ちていく時を表現するために「強-弱」を選んで、表現しようとしている。</p> <p>☆花火が落ちていく時の様子を表現するために、5年生の時に学習した身体の変化(回転や捻り)を選んで表現しようとしている。</p> <p>・1回目との変化に注目して見合わせる。</p>
終末6分	<p>5 学習の振り返りをする。</p> <p>・カードに書く。</p> <p>・発表する。(数名)</p> <p>6 整理運動</p> <p>7 挨拶</p>	<p>・友達との学び合いで得たことを書けるように視点を与える。</p> <p>☆○○グループが、緩急を使って花火の盛り上がる場面を表現していたので、自分たちのグループにも取り入れたいです。</p> <p>・全体で共有すべき内容の児童を抽出し発表させる。</p> <p>・けがや体調不良の有無を確認する。</p>

7 場の設定

4.授業づくりの考え方で示した物理的・空間的な場の工夫のとおり。


児童が必要だと考えた場合のみ、用具を使用することとする。(例：高さを出すための跳び箱の使用。)


ステージ	
------	--

8 板書計画

一緒に『変化』を楽しもう！

課題：力の変化をいかし、花火を表現して楽しもう！

題材：花火
 児童から出される花火+花火の変化



<学習の流れ> <場> <キーワード> (既習)

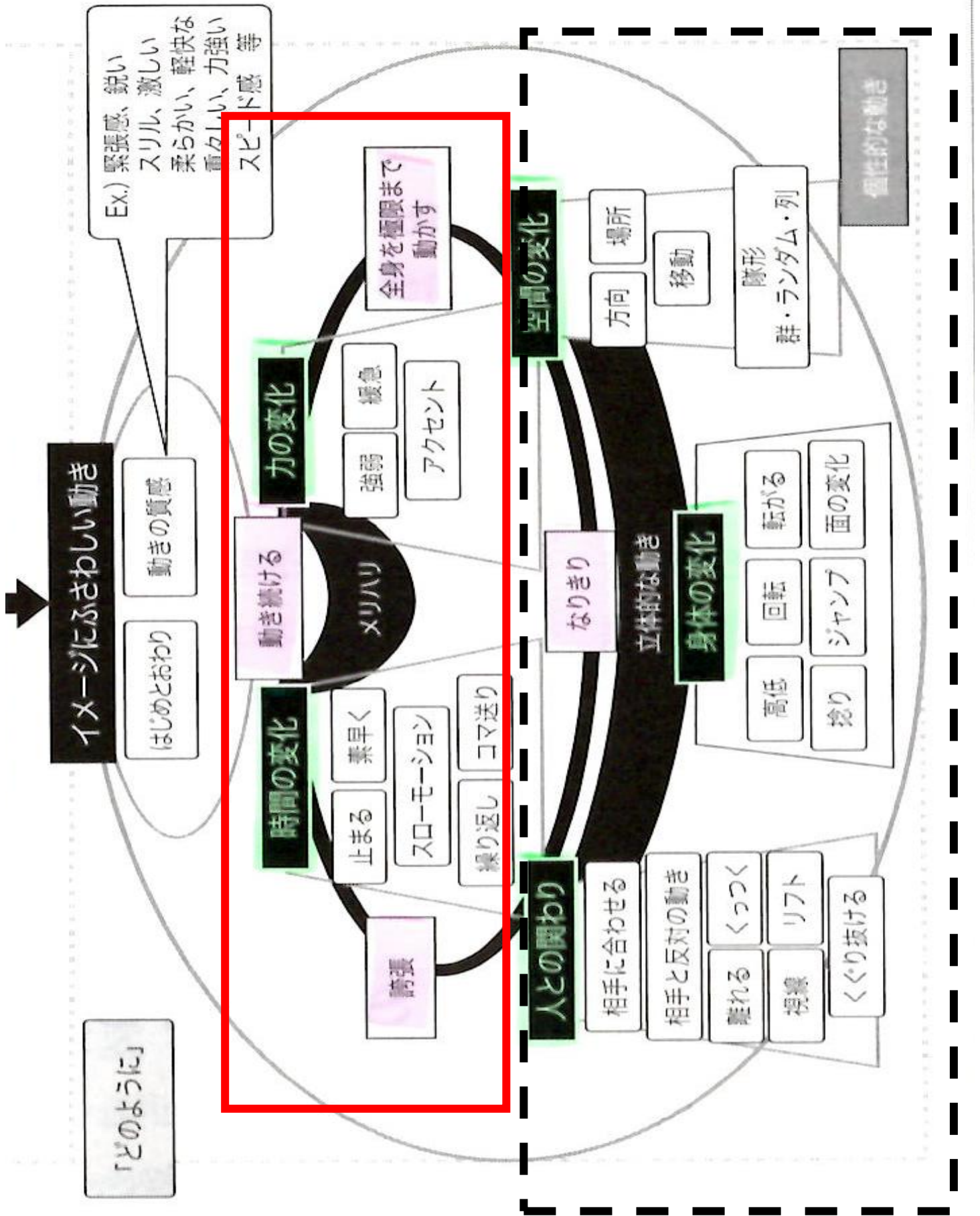
<一人で> <みんな>

×

9. その他（学習カード）

「一緒に『変化』を楽しもう」（表現運動）

第1回	月	日	()	<ふりかえり>
①いっぱい運動できたか			◎ ○ △	
②動きのイメージができたか			◎ ○ △	
③表現を工夫することができたか			◎ ○ △	
④友達と協力することができたか（学び合い）			◎ ○ △	キーワード：



鹿屋体育大学スポーツ人文応用社会科学系 講師 梶ちか子

図2 表現系ダンスの「技能評価観点構造図 (第3版)」(梶ほか、2020a)